

第 2 7 回 原 産 年 次 大 会

広 島 宣 言

われわれ原子力平和利用関係者は、被爆地広島において、「核兵器のない世界へー平和利用の役割」を基調テーマに、第27回原産年次大会を開催した。われわれが、本年次大会における論議を通じて深く認識し得たことは、核兵器の廃絶がいかに必要、かつ重要であるかということであった。またわれわれは、広島市民との対話などを通して多くを学び、今後の原子力平和利用のあり方を考えていく上で、有益な示唆を得ることができた。

この広島における大会を終えるにあたり、次のことを共通認識として宣言する。

1. われわれは、核兵器に絶対反対であり、人類の英知を結集し、核兵器のない世界を実現するため、核兵器廃絶への関係国の不断の努力を要求する。また、核不拡散条約（NPT）は世界の核不拡散のための重要な条約である。しかし、核兵器廃絶の展望がないまま、それを無期限に延長することには問題がある。来年のNPT再検討・延長会議の開催を機会に、この問題点を訴えることは被爆国日本の役割である。
2. われわれは、21世紀に向けた人類の発展、エネルギー資源確保と地球環境の保全の観点から、原子力平和利用の発展が極めて重要であると考え。現在までのわが国の実績におごることなく、安全性の一層の向上を含め、原子力平和利用の技術体系の完成に向けて研究開発に努める。また、この努力を通じて核拡散防止に役立つ技術の開発に積極的に取り組む。
3. アジア諸国の原子力平和利用の健全な発展のために、わが国が果たす役割は小さくない。われわれは、アジア諸国の期待に真摯に応えることが責務であると考え。
4. 人類の前途に横たわる様々な難しい問題を一つ一つ解決し、新しい未来を力強く切り開いてゆくには、人間の精神のはたらき、ことに科学的な探求と創造のいとなみが極めて重要である。このことで若い世代に期待するところは大きく、科学および科学技術教育の抜本的改善の必要性を強く訴える。
5. ヒロシマ・ナガサキの心とは、核兵器を廃絶して人類が共生する、という決意を意味する。世界の人々が、ヒロシマ・ナガサキを決して忘れず、その体験を風化せしめないことが重要である。このため、われわれは、「原爆ドーム」を人類の貴重な「遺産」として後世に伝えていくことの意義を強く訴える。

平成 6 年 4 月 1 5 日
日本原子力産業会議
第 2 7 回 原 産 年 次 大 会
準 備 委 員 会
委員長 飯 島 宗 一